

日 時 : 6月29日(土) 13:20~14:00
会 場 : 2階ホール
配信方法 : Zoom ウェビナー

座 長

川合 耕治 伊東市民病院 管理者

演 者

小田 和弘 伊豆今井浜病院 名誉院長

「もっともっと ずっとずっと へき地医療」

大会長講演 | もっともっと、ずっとずっとへき地医療

日 時 6月29日(土) 13:20~14:00
 演 者 小田 和弘 (伊豆今井浜病院 名誉院長)
 座 長 川合耕治 (伊東市民病院 管理者)

概 要 JADECOCOM のへき地・地域医療学会の大会長という大役を仰せつかった。はて、何を喋ろうか?とを考えても、私には今まで医師としてやって来た 45 年の実績、出来事しかない。意を決してまとめ始めた。

私は静岡県は大井川の上流山間部で生まれ、育った。高校卒業までの 18 年間そこを出た事は殆どなかった。高校のレベル、家の経済状態もあり、大学に行く気もサラサラなかったが、人生を一変させる出来事が起こった。高校 2 年の時に「へき地医療に従事する医師を育てる大学」ができる。「しかも、授業費免除」と、新聞を見ていた親父が気づいた。当然の如く、現役合格は果たせなかったが、1 浪にて自治医科大学に入学できた。大学寮の生活は刺激的で、日本各地の精鋭が集まっていた。とても太刀打ちできる様な同級生達ではなかったが、特に問題なく、楽しい 6 年間を経て卒業できた。時あたかも「各県 1 医大構想」の真っ只中。我々が各県に 2-3 名ずつ帰っても、地域医療の力になれるのだろうか?後輩たちは働きの場を確保できるのだろうか?それが何時もの関心事だった。

あれから 45 年間、初のへき地勤務であった佐久間病院では優秀な先輩、同輩たちと自分達が思い描く地域医療を思いのままにやらせて頂いた。このへき地勤務の間に吉新理事長が地域医療振興協会を立ち上げていた。自治医科大学の 9 年の義務年限が明けて、およそ 6 年後、伊豆の国立湊病院に理事長のお誘いで副院長として赴任する事になった。

国立病院が地元市町村に経営移譲され、共立湊病院として開院し、委託を受けた民間である協会が運営するという日本で 1 例目であった。今度は優秀で熱心な後輩たちにハッパを掛けられ、助けられた。

今回は私の医師人生の中で最も充実していたと感じている佐久間病院時代と共立湊病院時代を中心に私なりの地域医療を振り返ってみたいと思う。結局、職員・友人に、地域にそして地域住民に助けられてやって来た 45 年間だったと思い知らされた。そして、職員の子供達がまた、医療従事者として育っていく姿を見られるのは無上の喜びであることも知った。

【略歴】

1979 年 3 月 自治医科大学卒業
 1979 年 4 月 静岡県立中央病院勤務
 1981 年 4 月 市立磐田病院勤務
 1983 年 10 月 国民健康保険佐久間病院勤務
 1988 年 4 月 共立菊川病院勤務
 1992 年 10 月 聖隷浜松病院勤務
 1994 年 6 月 国立湊病院・副院長
 1997 年 10 月 共立湊病院・院長
 2011 年 4 月 伊豆下田病院・院長
 2012 年 5 月 伊豆今井浜病院・院長
 2024 年 4 月 伊豆今井浜病院・名誉院長